# 世界へ飛び出せ！明大生 ―協定校留学日記―

## Vol.8 近いようで遠い、韓国での1年

商学部4年
新井 里佳

2014年の2月から12月まで、韓国のソウル市にある高麗大学に交換留学をしました。

そもそも私が韓国に興味を持ち始めたのは、韓国のドラマや音楽がきっかけで、数年前から何度か家族で韓国旅行をして、大学の第二外国語として韓国語を選択しました。実は、私は1年次の春休みに韓国で短期留学をしたことがあり、当時は西江大学の語学堂に通っていました。語学堂では、台湾、香港、タイ、オーストラリア、そして日本人のクラスメイトと、午前中にスピーキングとライティングの授業を受け、午後には買い物や食事に出かけるという毎日を過ごしていました。西江大学の学生がLanguage Exchangeのパートナーとして私たち一人ひとりに付いてくれて、語学や文化を教え合いました。この短期留学終了後、韓国人とより深く関わるために現地の学生と同じように生活したいと思い、長期留学を決心しました。

国際交流団体のイベントでの韓服体験

長期留学をした高麗大学はソウル東部に位置し、2つの駅に跨る広さの大学です。学生の街として周辺には数えきれないほどの飲食店とカフェがあるため活気にあふれ、私と同様に学校のそばの寮などに暮らす学生も多数いたので夜も明るく安心して歩ける場所でした。全校で15以上の学部が設置されており、2万6千人が在籍していました。私は日本で商学部に所属していますが、高麗大学には商学部がなく、経営学部（Korea University Business School）の授業を中心に履修していました。高麗大学の授業の特徴は、1回の授業が75分で週2回行われ、ほとんどの授業が20人から40人の少人数です。また、グローバル化に力を入れているので、授業の半分が英語で行われていました。私は1期目の春学期には、『国際経営論』、『アジア比較ビジネス論』に加え、『中級韓国語』を履修しました。半年間韓国語を猛勉強した甲斐もあり、2期目の秋学期には、『国際マーケティング』、『生産管理論』などの5つの授業を履修することができました。1年間で印象的だった授業は『アジア比較ビジネス論』です。この授業は英語で行われていたため生徒の8割が留学生で、私はフランス人とチームを作りマレーシアの自動車ビジネスについての発表を行いました。授業内では日本の企業が話題に上がることが多く、日本人としての発言を多く求められました。このように、授業への積極的な参加を求められるので、初めのうちは緊張で指が震えてしまいましたが、授業前日にカフェで23時まで予習をするなど準備をして臨んでいました。

『農楽隊』の定期演奏会

授業のほかにも、部活動に積極的に参加しました。留学前から、「部活に入り、現地の学生と1年間共に過ごしたい」という思いが強かったので、3月に韓国の伝統楽器部『농악대(農楽隊)』に入部しました。当初は正直なところ、あまり歓迎されていないなと感じました。語学力不足と日本人特有の『建前』、『察する』ということが、コミュニケーションの壁を作っていました。人と向き合うことは、お互いに自分の考えを伝え合うことだと学び、自分を見直す良い機会になりました。農楽隊での一番の思い出は、夏の農村ボランティアです。ソウルから離れた安東という土地で、韓国人20人と1週間以上暮らす、ということは私にとって大きなチャレンジでした。朝6時に起きて自炊をし、ジャガイモ、唐辛子などの収穫を手伝い、最後には韓国の伝統行事『지신밟기（地神踏み）』を行いました。

この1年を通して、日本を一歩出れば、日常生活で自然に日本を代表した意見を求められるので、私の一言によって日本人へのイメージが変わることへの責任を強く感じました。また、1年間農楽隊を続けることができたのは、仲間が私を『留学生』や『日本人』としてではなく、『新井里佳』として受け入れてくれたからだと思います。これから社会人になりますが、どこでどのように働くことになっても、韓国での経験を忘れずに人と向き合うことを大切にしていきたいです。

束草（ソクチョ）に旅行した時の夜ごはん

**Profile**

**新井 里佳**
**Rika Arai**

商学部商学科4年
1993年埼玉県さいたま市生まれ、明治大学付属明治高等学校出身。富野貴弘ゼミで生産管理論を、中川秀一ゼミで地域経済学を学ぶ。サークルはFAIRテニスクラブに所属。

「韓国の海苔巻き『キンパ』と共に」